図書館年報を分析する② <表B>入館者数

"倍増"一転、減少が止まらない 図書貸出点数は直営時代を下回る

<表B> 入館者数と貸出点数の推移											
年 度	開館日数	入館者数	1 日平均	貸出者数	貸出点数	1 日平均					
平成 25(2013)	291			282,224	1,097,294	3770					
平成 26(2014)	352	728,606	2,101	324,145	1,130,175	3210					
平成 27(2015)	352	787,260	2,254	316,575	1,085,745	3108					
平成 28(2016)	337	751,032	2,209	301,391	1,057,789	3138					
平成 29(2017)	352	725,047	2,088	302,019	1,057,333	*3190					

H26~H29 年度の開館日数は本館の開館日。従って1日平均貸出数は正確な数値ではない可能性がある。* 印の H29 年度は移動図書館を含む各館の数値の合計で正確な数値。

三田市立図書館に指定管理者制度が導入された平成26 (2014)年度に、三田市が大いに宣伝したのは「入館者数」が大幅に伸びたということでした。当時の市担当課長は図書館運営評価委員会でデータを示さないまま「入館者数は倍増した」とまで述べました。しかし実際には、直営時代に「入館者数」のデータが図書館年報に掲載されたことはありません。図書館の内部データとしてあったのかもしれませんが、直営最後の年には本館入口のカウンターは故障して使えず、ウッディ分館、藍分室にはカウンターはなかったはずです。いったい何を根拠に「倍増」と宣伝したのか不可解でした。比較数値を示さずにイメージだけを市民に植え付けようとする姑息な手段、正に「印象操作」だと私たちは感じていました。

それは兎も角、図書館の実績を見る指標として、「入館者数」を掲げている公立図書館はほとんどありません。同じ人が喫煙のためなどで何回も出入りすれば、そのたびにカウントされるわけですし、何よりも図書館は「集客を目的とする」施設ではありません。したがって「入館者数」には「図書館の指標」としての意味はほとんどありません。とは言え、指定管理者制度が導入され「開館日数」は確かに増えました。これが制度導入のほとんど"唯一の目玉"だったと言ってもよいでしょう。「開館時間」に換算すれば、本館・ウッディ分館・藍分室の3施設合計で、直営時代よりほぼ倍増しました。直営最後の平成25(2013)年度の3施設合計の開館時間は5,253.5時間でしたが、指定管理初年度の平成26(2014)年度は11,052時間になったのです。これだけ増えたのですから当然のこと、入館者が増えなきゃおかしいわけです。加えて、中学生・高校生らの「勉強場所」として、まったく制約無しに使えるようにしましたので、これも入館者増の一つの要因にはなっています。

<表B>入館者数をご覧ください。

平成26年度に72万8000人に"倍増した"入館者数は、開館日数・時間の拡大・延長が市民に広く認知されたためでしょうか、指定管理者制度2年目の27年度には、前年度より5万8000人・8%も増えました。ところが、どうしたことでしょう、翌年からは早くも大幅な減少に転じ、29年度には指定管理初年度を3500人も下回ってしまいました。市が大宣伝した目玉の指標が、たった4年で元に戻るどころか「ジリ貧状態」になってしまったのです。

とは言え、直営時に比べて入館者は"大幅に増えている"のですから、図書の「貸出点数」も大幅に伸びて良いはずです。確かに初年度26年度は3万点を超える伸びを記録し、指定管理者制度の効果のように見えました。ところが翌27年度は、前述のように入館者がさらに6万人近く増えているにもかかわらず、「貸出点数」は一転、4万4000点も減ってしまったのです。この数値は、入館者が"半分だった"はずの直営最終の平成25年度と比べて1万点以上も少ないのです。つまり、貸出点数は直営時代に及ばない状態に陥ってしまったのです。それ以降も貸出点数の減少は続いています。この"反比例現象"一体何故なのでしょうか。

入館者のうち本を借りるのは、たった4割

図書館は、当然のことですが「本を借りてもらってなんぼ」の世界です。人がどれだけ来ても蔵書を利用してもらえなければ優れた図書館とは言えません。岡山市立図書館に30年勤務、退職後も広島、大阪などの大学で図書館学の教鞭をとられる傍ら、現在の図書館問題を各地(三田市にも来られている)で検証、報告されている田井郁久雄さんは「風」(No.212)誌上で、「(図書館の)サービス数値としての正確さ、信頼性、継続性、それに総合的にサービスを評価するうえで、貸出の数値以上のものはない」と述べておられます。わたしたちも深く同意するところです。

指定管理者制度を導入すれば、開館時間を大幅に増やすことができる。そうすれば市民は図書館を利用しやすくなり、「貸出点数」はどんどん増える、図書館は「知の拠点」としてもっともっと活用されるようになる――こうした三田市のお墨付きは、結果としてTRC運営1期・5年でまったく実現していません。むしろ事態は真逆の方向に進んでいます。市の皮算用は幻想だったとしか言えず、単なる願望に基づく誇大宣伝に過ぎなかったことが明らかになった――わたしたちはそう評価しています。

もう少し考えてみましょう。指定管理初年度の入館者72万8000人余が、直営時代の入館者の「倍の数値」だとすると、直営時代の図書館利用者は年間36万人ほどということになります。入館者数がその程度なのに、25年度には28万人を超す人が本を借り、その点数は109万点以上なのです。一日平均では3770点と、指定管理後のどの年をも大幅に上回る数値になっています。開館時間が現在の半分以下だったにもかかわらずです。そして「入館者数」に対する「貸出者数」の比率は77%強にもなります。来館者の8割近くが本を借りて帰ったのです。

一方、TRCの運営になって入館者数が最も多かった平成27年度の<「貸出者数」÷「入館者数」>は、わずか40%です。図書館に来た人の4割しか本を借りていないので

す。「貸出点数」で見ても平成27年度以降、直営最後の25年度の水準をどんどん割り込んでいます。それが「TRC図書館」の現実です。直営時の図書館と比べてどちらが優れているかは一目瞭然です。

指定管理者制度になって以降の図書館年報には、当年度の3施設別の「月別入館者数」と「1日平均数」「総トータル」の表が掲載されます。しかし、年度別の変遷(増減)が一覧で分かる表は掲載されていません。上掲の**〈表B〉**は市民の会が各年度の年報データを基に独自に作ったものです。都合の悪いデータは載せない、それが指定管理者TRCと三田市の方針のように感じられます。

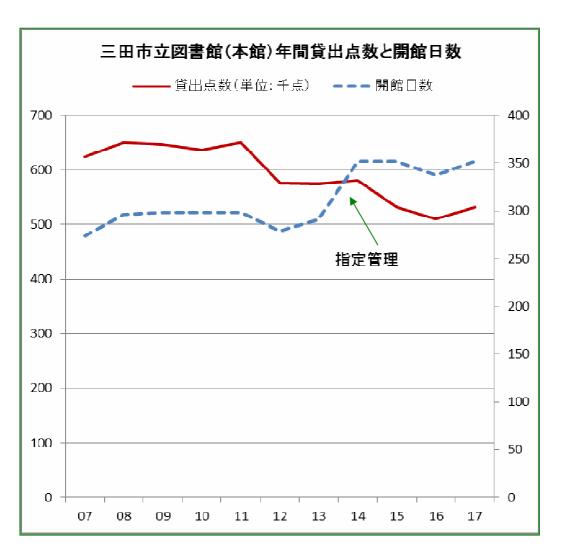
開館日数は増えたのに貸出は減り続けている

前述の田井郁久雄さんが、昨年11月末に神戸市で開かれた日図研の「指定管理者制度」をテーマにしたセミナーで、三田市立図書館の「年間貸出点数」と「開館日数」の関係を発表されました。当会の会員もこのセミナーに参加しましたが、田井さんがその時に使ったグラフを送って下さいました。

次ページ、下の表がデータの開館日数と貸出点数の実数値、グラフが三田図書館本館の貸出点数と開館日数を、折れ線グラフで表したものです。2014年が指定管理移行の年です。開館日数増に逆らうように、貸出点数が下降傾向にあることが良く分かります。「開館日数と貸出点数」の関係も、「入館者数と貸出点数」の関係と全く同じ"相容れない仲"になっていると言ってよいと思います。

図書館に指定管理者制度を導入した目的は、「図書館に求められる役割」をより拡充・発展させるためです。そして、その目的がどの程度果たされたかを検証する最も大切な指標が、前述の通り「貸出点数」です。その指標が、向上どころかどんどん減少しています。このことが端的に「指定管理者制度は図書館には向かない」制度であることを示しています。わたしたちはこれまでの5年間、TRC三田が運営する三田市立図書館を様々な角度から検証してきました。そして、指定管理者制度は単に「図書館に向かない制度」にとどまらず、「図書館そのものを疲弊させ殺してしまう制度」である、というのが私たちの結論です。

「図書館年報を分析する」シリーズではこの後も、そのことを証明していきたいと考えています。



三田市立図書館(2014 年度指定管理)										
(注:貸出点数 2016 までは『日本の図書館』、2017 と本館開館日数は年報による)										
貸出点数(単位:千点)										
		小 統計	+	ウッディタ	4.7.中	ВМ	<u>+</u> 40 88 40 □ *h			
		全館計	本館	ウン分館	藍分室		本館開館日数			
2007	07	1,134	624	422	72	16	274			
2008	80	1,198	650	458	74	16	296			
2009	09	1,206	646	479	69	12	298			
2010	10	1,216	637	498	70	11	298			
2011	11	1,215	651	487	69	9	298			
2012	12	1,074	576	432	58	9	279			
2013	13	1,097	575	456	57	10	291			
2014	14	1,129	581	480	61	8	352			
2015	15	1,080	532	484	59	5	352			
2016	16	1,050	510	479	56	5	337			
2017	17	1,057	532	469	52	4	352			